



## 平成22年度のごみ処理経費についてお知らせします

千葉市では、環境省が策定した「一般廃棄物会計基準」に基づき、ごみ処理にかかっている費用を算出しています。

平成22年度のごみ処理経費について、千葉市のごみの分別種類ごとに、「収集運搬」、「中間処理」、「最終処分」、「資源化」、「管理」のそれぞれの費用を取りまとめましたので、お知らせします。

なお、それぞれの費用には、人件費や委託業者への委託料、物品購入費用、設備（収集車両や工場など）の減価償却費などが含まれています。

収集運搬	収集運搬とは、家庭から出る可燃ごみ、不燃ごみ、びん・缶・ペットボトルなどの資源物を、回収場所であるごみステーションから収集車で集め、清掃工場やリサイクルセンターなどへ運ぶことをいいます。	
中間処理	中間処理とは、収集した可燃ごみを清掃工場で焼やすことや、不燃ごみ・粗大ごみをリサイクルセンターで細かく砕いたり、つぶしたりして埋め立てられるようにすることをいいます。	
最終処分	最終処分とは、清掃工場で可燃ごみを燃やした後に出る灰や、リサイクルセンターで細かく砕いた不燃ごみ・粗大ごみなどを埋め立てることをいいます。	
資源化	資源化とは、収集したビン・缶・ペットボトルなどの資源物をリサイクルするため、リサイクルセンターなどで選別したり、圧縮したりすることをいいます。	
管理	管理とは、清掃工場やリサイクルセンターの運営やごみ処理に関する計画の策定など、ごみ処理全体に関わる業務をいいます。	

## 1 ごみ処理費用（単位：円／年）

ごみの種類ごとに、1年間に処理にかかる費用をそれぞれの部門別に取りまとめたのが下の表です。ごみ処理全体で年間約133億円の費用がかかっています。

	収集運搬部門費	中間処理部門費	最終処分部門費	資源化部門費	作業部門費合計	管理部門費	費用合計
可燃ごみ	1,683,637,200	6,225,737,019	741,356,722	0	8,650,730,941	488,940,109	9,139,671,050
不燃ごみ	284,610,993	288,603,319	148,126,102	94,418,921	815,759,335	46,106,793	861,866,128
粗大ごみ	1,084,665,233	112,818,211	44,890,792	38,728,061	1,281,102,297	170,916,304	1,452,018,601
資源物(びん)	268,880,127	0	0	270,611,704	539,491,831	32,244,182	571,736,013
資源物(缶)	502,063,874	0	0	258,311,171	760,375,045	42,976,468	803,351,513
資源物(ペットボトル)	325,734,799	0	0	135,263,749	460,998,548	26,055,680	487,054,228
有害ごみ	8,276,007	0	0	7,270,225	15,546,232	878,674	16,424,906
全種類※	4,157,868,233	6,627,158,548	934,373,617	804,603,830	12,524,004,227	808,118,210	13,332,122,438

「作業部門費合計」＝「収集運搬部門費」＋「中間処理部門費」＋「最終処分部門費」＋「資源化部門費」

「費用合計」＝「作業部門費合計」＋「管理部門費」

※資源物（古紙・布類）については、再資源化事業者による収集運搬・資源化を行っているため対象外

※表中の数値については、端数処理のため、合計等が一致しない場合があります。

## 2 取扱量（単位：t／年）

ごみの種類ごとに、各部門で取り扱った量を示したものが下の表です。

	収集運搬量	中間処理投入量	最終処分投入量	資源化投入量
可燃ごみ	182,215	258,709	17,702	—
不燃ごみ	8,484	10,059	3,538	1,164
粗大ごみ	3,916	3,747	1,072	477
資源物(びん)	7,244	—	—	7,244
資源物(缶)	3,142	—	—	3,142
資源物(ペットボトル)	2,995	—	—	2,995
有害ごみ	100	—	—	100
全種類※	208,096	272,515	22,312	15,121

※「中間処理投入量」には、家庭ごみステーションからの「収集運搬量」に加え、事業所から排出され清掃工場へ搬入されたごみ量なども含まれます。

## 3 1kg当たりの原価

ごみの種類ごとに、1で示した各部門の「ごみ処理費用」を、2で示した「取扱量」で除したものの（トンキログラムに変換しているため、1,000分の1となっている）が下の表です。

	収集運搬部門原価 (円/kg・収集運搬量)	中間処理部門原価 (円/kg・中間処理投入量)	最終処分部門原価 (円/kg・最終処分投入量)	資源化部門原価 (円/kg・資源化投入量)
可燃ごみ	9.24	24.06	41.88	—
不燃ごみ	33.55	28.69	41.87	81.15
粗大ごみ	276.97	30.11	41.87	81.15
資源物(びん)	37.12	—	—	37.36
資源物(缶)	159.79	—	—	82.21
資源物(ペットボトル)	108.75	—	—	45.16
有害ごみ	82.71	—	—	72.66
全種類※	19.98	24.32	41.88	53.21

#### 4 収集した資源物の売却や清掃工場での発電による電力売却による収入

##### (資源物)

資源物として収集したものを新浜リサイクルセンターで、中間処理したものを売却しています。主に、びん・缶・ペットボトル・鉄くずを売却していますが、収集したのものから資源となるものを売却しているため、収集量とは一致しません。

##### <資源物等の売却収入>

	売却量(トン)	平均単価(円/トン) <sup>※1</sup>	売却金額(円)
びん類	3,969	839	3,329,028
アルミ缶	1,626	139,239	226,464,497
鉄缶	1,515	29,784	45,136,949
ペットボトル <sup>※2</sup>	2,995	23,565	70,580,746
鉄くず <sup>※3</sup>	1,665	30,872	51,405,755
その他資源物 <sup>※4</sup>	79	34,164	2,711,592
	11,850		399,628,567

※1：平均単価は、売却金額を売却量で除したもの

※2：ペットボトルは、容器包装リサイクル協会からの再商品化合理化拠出金、有償入札拠出金

※3、※4：粗大ごみを破碎処理した後にでる鉄くずなど

##### (売電・熱供給)

新港清掃工場、北清掃工場でごみを焼却したときの熱（蒸気）により発電し、その電気や熱（蒸気）を電力会社や清掃工場の周辺企業へ売却しています。

##### <売電等収入>

	売却量	平均単価 <sup>※</sup>	金額(円)
売電収入	5,0997,246kWh	11.04円/kWh	563,412,135
熱供給収入	36,412,313MJ	1.07円/MJ	41,806,013
			605,218,148

※平均単価は、売却金額を売却量で除したもの

kWh（キロワットアワー）：1時間当たりの発電電力量

MJ（メガジュール）：1,000,000ジュール＝熱量の単位

## 5 その他

古紙・布類の資源化を推進するため、集団回収を行う町内自治会等の実施団体及び回収業者並びにごみステーションでの分別収集を行う業者に補助金を支出しています。なお、回収経費の一部に売却益を充てているため、市への収入は、ありません。

		資源化量(トン)	補助平均単価(円/kg)	補助金額(円)
古紙	集団回収	17,751	7.0	124,218,094
	ごみステーションでの分別収集	15,994	6.4	102,576,678
布類	集団回収	804	14.8	11,907,586
	ごみステーションでの分別収集	1,401	13.3	18,634,908
合計	集団回収	18,555	7.3	136,125,680
	ごみステーションでの分別収集	17,395	7.0	121,211,586

※古紙回収庫搬入分はごみステーションでの分別収集に含まれます。

※集団回収実施団体への補助金は、回収量 1kg 当たり 2 円に、拠点回収の場合の月 500 円を加算した金額です。

※回収業者への補助金は、回収経費から市場(売却)価格を差し引いて算出した品目別単価に資源化量を乗じた金額です。



指定袋 1 袋あたりのごみ処理費用は？



### 1 可燃ごみ（45リットル）1袋あたりの処理費用は、約280円

(内訳)	収集運搬費用	約 69円
	中間処理（焼却）費用	約 181円
	最終処分（埋立）費用	約 30円

### 2 不燃ごみ（20リットル）1袋あたりの処理費用は、約220円

(内訳)	収集運搬費用	約 110円
	中間処理（選別破碎）費用	約 95円
	最終処分（埋立）費用	約 15円